

川村 英司

レクチュア・コンサート

2006 - 2007年度 第3回
(通算 第22回)

2007年5月22日(火) 18時30分より

於:Studio Virtuosi

Robert Schumann „Vergleichen zwischen Autograph und Erstdruck”

シューマン：「自筆楽譜と初版の違いを考える」

バリトン：川村 英司

ピアノ：小林 秋恵

初めにほんの少しだけ BDG (ドイツ連邦声楽教師連盟) の年次総会に恒例のように参加してきましたので、気がついたことを話します。今年のテーマは „Schneller.....höher.....lauter..... Singen – ein Hochleistungssport?“ で、講座の内容は「より早く・・・より高く・・・より五月蠅く (大きく)・・・歌う事とは = 高度な技術を求めるスポーツか?」のテーマを皮肉った (テーマそのものが皮肉ですが) 量より質を強調した話がメインでした。音楽は量より質で勝負をしなければなりません。しかしどうも日本人は量でしか勝負が出来ない傾向を持っているようです。「日本にはピアニストはいない! 皆フォルティストばかりだ!」と発言したピアノの先生が外国にはいました。日本の音大のピアノ科をフィンガースポーツ科と言った外人もいました。「さすがフィッシャー=ディースカウだ! 作曲家がピアノと書いているところをピアノで歌う!」と感激して TV で発言した芸大教授もいました。彼の言によると「ピアノで歌うと聴衆に聴こえなくなるのではないかと言う恐怖心で大きな声で歌う」のだそうです。作曲家はピアノで歌うことを指示しているにもかかわらず、勝手に大きく歌うのです。作曲家に指示に従って歌うことの大切さを教えるのが、音楽大学の先生であるべきなのではないでしょうか? 全く不可解な発言です。

勿論年末恒例のベートーヴェンの第九交響曲も、その際たるものでしょう。おみこしを担いでいるのではないですから、景気よく怒鳴ればよいのではないのです。指揮者も指揮者ですが、コーラスもコーラスです。勿論ソリストも同様です。

ピアノシモンでもオーケストラを乗り越えて聴衆に聞こえる声を出す勉強をしなければならないのですが、オペラのアリアで吠えることだけを要求する先生もいるのです。勿論作曲家が p と指示しているメロディーに、その箇所前で *cresc.* を書き込み、次の p の代わりに f と書き込んでいる楽譜編集者、出版社がいるのですから、押して知るべしですね。勿論オペラのアリアには p も pp もあるのですが、もっぱら無視です。悲しき限りです。それでは音楽ではないのです。笑ってしまうようなことは数え上げれば限りないでしょう。したがって日本音楽コンクールの声楽部門を「日本吠えコンクール」と僕は言ってしまうのです。審査員の代わりに騒音計を設置しておけば正確で良い! と冗談だけではなく、言ってしまうのです。

では本題に入ります。

今回のレクチュア・コンサートはここ1年半くらいで手に入った自筆楽譜、特にシューマンの自筆楽譜、と色々な出版楽譜を比べて気がついたことについて、話をしながら歌ってみたいと思います。

一般的に言って我々が目にする出版された楽譜の出来る過程（最近以前のもの）は、先ず自筆楽譜（Autograph [A]）があり、それを出版社に渡すための清書楽譜（Abschrift [Ab]）を作ります。勿論清書された楽譜には作曲家の目が通り、訂正などが書き込まれます。次に植字工（Notenstecher）が楽譜を作りますが、勿論のこと何度もゲラ刷り（校正刷り、Bürstenabzug）が作曲家によって校正され、その段階でミスだけではなく、作曲家の考えが変わってメロディー、リズムや伴奏が変更されることがあります。しかる後に初版（E）が出版されますが、印刷ミスはつき物です。（かなり正確に出版される作曲家の個人全集でさえもミスは皆無ではありません。）したがって作曲家の生前に再版が出版されることになると、初版に直しを入れて再版楽譜（Z）の出版となるのです。作曲家自身が手を加えた初版楽譜は人によって何種類も存在することになりますが、その全部が再版に反映されるとは限りませんので、我々の楽譜を読む解釈が微妙に違ってくるのです。

僕の主観的な考えでは、勿論物によりますが、作曲家が最初に考えた曲の出発点である自筆楽譜は解釈上かなり考慮する必要があると思います。出版楽譜に全面的に頼るのではなく、その辺の所を考慮して、気になった曲を集めて話をしながら、その違いで、どのように表現が変わってくるか、聴き比べていただきたいと思い、計画したのが今回のプログラムです。

最初に作曲家が詩から感じたインスピレーション、最初の思いつきはとても大切だと思います。しかも作曲家によっては、何度か書き直しをしたり、以前書いた曲を失念して、同じ詩に再度作曲することもあると思います。シューベルトのドイチュンバーの違う同詩異曲はその例になるでしょう。

残念ながらシューマンの歌曲ではヴォルフのように色々な資料がありませんので、どの段階で考えが変わったのか？何処でどうしたのか分からず、想像する以外には方法がありません。多分ベルリンあたりで調べると、もっと貴重な資料が見つかるのですが、ヴィーンで調べるものが多くて中々ベルリンまで足が伸ばせないでおります。来年のドイツ連邦声楽教師連盟のコンGRESSはライブツイッヒでありますので時間を見つけて足を伸ばして調べたいとは思っていますが、時間がどのように作れるかどうかまだわかりません。

前置きはこのくらいにして本題に入りたいと思います。

作品 25 番の 25 曲からなる歌曲集 „Myrthe“ はクララとの結婚が可能になった 1840 年に作曲し、彼女の希望である結婚式のブーケの花「ミルテ」と題して（参考資料 1）出版し、第 2 ページには「親愛なる花嫁に」（参考資料 2）と初版では印刷されています。

Widmung Op. 25, Nr. 1 はその一番最初の歌で **Rückert**（リュッケルト）の詩です。リュッケルトの詩と言えば、シューベルトの „Sei mir gegrüßt“ や „Lachen und Weinen“、シューマン、メンデルスゾーン、レーヴェ、コルネリウスなどローマン派の作曲家たちとマーラーの „Kindertotenlied“（リュッケルト自身の息子の死後に書かれた詩に作曲した名曲）、などが有名ですが、シュトラウス、プフィッツナーなどかなり多くの作曲家が彼の詩に作曲しています。

この詩の内容は僕には熱烈な「愛の歌」であり、後奏にはシューベルトの「アヴェ・マリーア」が二度繰り返されていますし、詩の内容からいっても男性の歌と思うのですが、反論される方はどうぞ遠慮なく意見を披露して下さい。

Widmung

Du meine Seele, du mein Herz,
Du meine Wonn', o du mein Schmerz,
Du meine Welt, in der ich lebe,

ささげる言葉

汝こそ我が魂、汝こそ我が心
汝こそ我が喜び、おお 我が苦しみ
汝こそ我が生をいとむ世界

Mein Himmel du, darein ich schwebe,	汝こそ我が羽ばたける天空
O du mein Grab, in das hinab	おお 汝こそ我が墓穴、そこには
Ich ewig meinen Kummer gab.	としえに我が苦悩を葬り去った
Du bist die Ruh, du bist der Frieden,	汝こそ我が安らぎ、汝こそ我が和み
Du bist von Himmel mir beschieden.	汝こそ我が天より我に授かりしもの
Daß du mich liebst, macht mich mir wert,	汝の愛こそ我を価値あらしめ
Dein Blick hat mich vor mir verklärt,	汝の眼差しこそ我を晴れやかにし
Du hebst mich liebend über mich,	汝こそ我を高めるもの
Mein guter Geist, mein bessres Ich !	我が善良なる霊よ、より善き我よ！

このように熱烈な心を吐露する心境、ここまでの気持ちをリュッケルトはどのような時の持ったのでしょうか？知りたいものです。またシューマンがこのような気持ちをクララに捧げる歌曲集の第1曲に位置したことは大いに理解できます。

この曲で演奏上一番気になる点は最後のページ (参考資料 3) です。Du meine Seele, du mein Herz, の繰り返しの部分から当然盛り上がり歌うのですが、2段目に自筆楽譜には無い *steigernd und eilen* (盛り上げて、そして急いで) が印刷楽譜にあります。従って *mein guter Geist, mein bessres Ich !* の *ritardando* も自筆楽譜では無く、初版から付いています。

所謂 *Agogik* の範囲のテンポの動きはわざわざ作曲家が楽譜には書き込まず、それ以上の動きを作曲家が要求する時にテンポの変化を記入すると言われていています。後奏に二度出てくる *ritard.* 及び *ritardando* も自筆楽譜には記されていません。初版で加えられています。

その違いを演奏してみます。

シューマンにおいては *rit.* と *ritard.* は区別して演奏すると言われております。シューマンの *rit.* は *ritenuto* を意味しており、段々ゆっくりしていく場合には *ritard.* まで書いたのだと言うのです。確かにそのように演奏することがシューマンの場合大切だと思います。しかし日本の出版社の楽譜でシューマンが *ritard.* と書いているにもかかわらず、*rit.* に省略している楽譜が出版されていますので、日本製の楽譜を使うときには良く気をつけて購入しなければ、とんでもない間違いを犯すこととなります。何処までが出版社の責任なのか、編集者の責任なのか、僕には分かりませんが、編集者の責任はいずれにしても重大です。

それぞれの作曲家によって楽語の捉え方に特徴があります。例えばシューベルトの場合には *decresc.* と *dim.* は区別して演奏すると言うことは既に話したと思います。ブラームスの場合には *dolce* とある場合には *espress.* に読み替えることが大切です。現代作曲家にはそれぞれの奏法の記号を知らなければ演奏ができません。元に戻ります。

Die Lotosblume Op. 25, Nr. 7 この曲でも問題は曲の終わりの部分 (参考資料 4) です。3段目の終わりに *ritard.* があり、4段目の3小節目にも *ritard.* があります。勿論シューマンは *ritardando* を書いた後に *a tempo* を書き込まないので有名な作曲家ですので、演奏者がどこから *a tempo* にするか、考えなければなりません。印刷された楽譜では常識的に考えて、3段目の *ritard.* を明瞭に歌って、間奏で *a tempo* にして、最後の *ritard.* をきちっとするのが普通の演奏ですが、自筆楽譜だと、繰り返しの言葉 *vor Liebe und Liebesweh* の2度目を明瞭な形で *ritard.* して曲が終わるので、1度目の繰り返しの言葉は大げさに *ritardando* をしないで、十分表現をすることが出来ます。

また印刷楽譜で書き込まれた2段目からの *nach und nach schneller - - -* は自筆楽譜ではありませんが、*Sie blüht und glüht und leuchtet, und starret stumm in die Höh', sie duftet und weinet und zittert* の *accelerando* は言葉の表現で出来ることであり、自筆楽譜でも当然 *nach und*

nach schneller - - - のような歌い方になるでしょう。

この部分を自筆と初版以降の楽譜に出来るだけ忠実に二通りで歌ってみます。

Die Lotosblume (10)

蓮の花

Die Lotosblume ängstigt
Sich vor der Sonne Pracht,
Und mit gesenktem Haupte
Erwartet sie träumend die Nacht.

蓮の花はおびえる
陽のまばゆさに
顔をふせて
夢見るように夜を待ちわびる

Der Mond, der ist ihr Buhle.
Er weckt sie mit seinem Licht',
Und ihm entschleiert sie freundlich
Ihr frommes Blumengesicht.

恋人の月は
その光で目覚めさせ
ベールを取り除き
敬虔な花の顔をほころばす

Sie blüht und glüht und leuchtet,
Und starret stumm in die Höh';
Sie duftet und weinet und zittert
Vor Liebe und Liebesweh'.

花は咲き、燃え、輝き
空を静かにじっと見つめ
芳香をはなち、泣き、ふるえる
愛と愛の痛みに

Du bist wie eine Blume Op. 25, Nr. 24 この曲は二通り（パリのコンセルヴァトアールの図書館とベルリンの図書館）の自筆楽譜が残っています。そのいずれもの最初のメロディーが装飾された形で作曲されています。

ハイネが書いた So hold und schön und rein. (最初)、So rein und schön und hold. (最後)が、So schön, so rein und hold. (どちらも)と言葉の付け方、変更がシューマン (参考資料 5) によって成されていますが、これはハイネのイロニーを取り除くためのものだと考えられています。しかし僕はクララ版によってなされた、ハイネの詩の後韻を踏ませた変更 (参考資料 6) So rein, so schön und hold. (最後) をする方が良いと思いますのでクララ版を使っています。しかしペーター版 (参考資料 7) ではハイネの詩に従っています。

Du bist wie eine Blume (Heine)

汝は花のごとく (ハイネ)

Du bist wie eine Blume,
So hold und schön und rein;
Ich schau dich an, und Wehmut
Schleicht mir ins Herz hinein.

汝は花のごとく
ゆかしく、うるわしく、きよい
汝をつくづく見れば悲しみの想い
わが胸に忍び込む

Mir ist, als ob ich die Hände
Aufs Haupt dir legen sollt,
Betend, daß Gott dich erhalte
So rein, so schön und hold.

あたかも、わが手を
汝があたまにのせて
祈る、神のめぐみあれと
きよく、うるわしく、ゆかしく

(ハイネは So rein und schön und hold. と詩作した)

Der arme Peter Op. 53, Nr. 3 この曲は自筆楽譜と初版楽譜との間にかなりの違いがあります。

ヴォルフのように初版のための清書楽譜（勿論作曲家の校正が加わっています）、作曲家の校正の入ったゲラ刷り、初版、それに作曲家自身が手を加え、訂正もした再版などの資料が揃っていると、我々が判断できる材料が増えて有り難いのですが、シューマンに関してはそれらの資料が非常に少ないと思いますので、その違いを聴き較べていただきます。

先ず第 1 曲の前奏ですが、自筆楽譜（参考資料 8）では 3 小節以降と同じ音楽が既に始まっていて、その途中からペーターが歌い始めるという想定であったと思います。初版から現在印刷されている楽譜（参考資料 9）になっていますので出版に際して変更したのでしょうか。第 1 曲目はその他に間奏、後奏（参考資料 8）にも伴奏部で違いがあります。

それらを聴き比べてください。

aus „Junge Leiden“ von „Buch der Lieder“

『歌の本』中の「若き悩み」より

Der arme Peter (Romanzen 4)

哀れなペーター (ロマンツェ 4)

I

I

Der Hans und die Grete tanzen herum,
Und jauchzen vor lauter Freude.
Der Peter steht so still und (so) stumm,
Und ist so blaß wie Kreide.

ハンスとグレーテは踊りまわって
嬉しさのあまり歓声をあげている
ペーターは静かに、黙って立ち止まり
チョークのように青ざめている

Der Hans und die Grete sind Bräut'gam und Braut,
Und blitzen im Hochzeitgeschmeide.
Der arme Peter die Nägel kau't
Und geht(steht) im Werkeltagskleide.

ハンスとグレーテは花婿と花嫁で
婚礼の衣装を着てまばゆいばかり
哀れなペーターは爪を噛み
仕事着のままで立っている

Der Peter spricht leise vor sich her,
Und schaut (schauet) betrübet auf beide:
Ach! wenn ich nicht gar zu vernünftig wär',
Ich tät'(täte) mir was zu leide.

ペーターはぶつぶつ独り言をいって
悲しそうに二人を見つめている
ああ！もし僕に分別がなかったなら
自殺していたかも

第 2 曲目は第 1 曲目のような相違はありませんが、後奏の *a tempo* が自筆楽譜（参考資料 10）では印刷楽譜より 2 小節後からになっています。

II

II

„In meiner Brust, da sitzt ein Weh,
Das will die Brust zersprengen;
Und wo ich steh' und wo ich geh',
Will's mich von hinnen drängen.

「僕の胸は、苦しきのあまり
今にも張り裂けそうだ
何処にいようと、何処に行こうと
ここから駆り立てられるようだ

Es treibt mich nach der Liebsten Näh',
Als könnt's die Grete heilen;
Doch wenn ich der in's Auge seh',
Muß ich von hinnen eilen.

恋しい子の傍に行きたい
グレーテが癒してくれるだろうに
だが僕があの子の眼を見ると
僕は慌てて逃げ出すだろう

Ich steig' hinauf des Berges Höh',	僕は山の頂に登ってゆく
Dort ist man doch alleine;	そこでなら一人になれるから
Und wenn ich still dort oben steh',	そして頂上に静かに立ち
Dann steh' ich still und weine.“	そこでひっそりと立って泣くのだ

第3曲目は伴奏部と歌唱部に結構相違があります。最初の小節の3拍目からから自筆楽譜（参考資料10）では左手が単音ですが、印刷楽譜ではオクターヴで弾きます。

5小節目からは歌唱部も伴奏部もかなりの相違がありますので（参考資料11）とシューマン全集（参考資料12）を較べてみてください。違いが良くお分かりでしょう。ではそれらを歌い較べてみます。

III	III
Der arme Peter wankt vorbei,	可哀想なペーターはゆっくりと
Gar langsam, leichenblaß und scheu.	死人のように青ざめて人々をさけて行く
Es bleiben fast, wenn sie ihn sehn,	ペーターを見た道行く人は
Die Leute auf der Straße stehn.	思わず立ち止まる
Die Mädchen flüstern sich in's Ohr:	娘たちは互いに耳に囁きかける
„Der stieg wohl aus dem Grab' hervor.“	「あの人はお墓から出てきたみたいね」と
Ach nein, ihr lieben Jungfräulein,	ああ、違いますよ 娘さんたち
Der legt sich(steigt) erst in's(in das) Grab hinein.	彼はこれからお墓に入ろうとしているのです
Er hat verloren seinen Schatz,	彼は恋人を失ってしまいました
Drum ist das Grab der beste Platz,	だからお墓が一番良い場所なのです
Wo er am besten liegen mag,	彼が一番横たわりたいところ
Und schlafen bis zum jüngsten Tag.	そして最後の審判の日まで寝ているのです

Belsatzar Op. 57 この詩は「若き悩み」の「ロマンツェ」の10番目のバラードで、この題材は旧約聖書の「ダニエル書」第5章から得ています。聖書では一夜の出来事ではなく、王が臣下に殺されることにもなってはいません。ハイネの見事な詩的なフィクションです。

この曲もメロディーと伴奏にかなりの違いが見出せるので、歌い分けてみたいと思います。歌の冒頭で自筆楽譜（参考資料13）と印刷楽譜（参考資料14）ではこのように違います。

63小節からの自筆楽譜（参考資料15）と印刷楽譜（参考資料16）の違いでは、それぞれの音符を短くして休止符を入れる自筆楽譜の方法は不気味さを表現する手段として効果的だと思います。

Belsatzar (Romanze 10)	ベルザツァール (ロマンツェ 10)
Die Mitternacht zog näher schon;	はや真夜中に近く
In stummer(stiller) Ruh' lag Babylon.	バビロンの町は静まりかえっている
Nur oben, in des Königs Schloß,	そびえたつ王の城の中だけは
Da flackert's, da lärmt des Königs Troß.	かがり火が燃え、従者らがざわめいている
Dort oben, in dem Königssaal,	そこの高樓の広間では
Belsatzar hielt sein Königsmahl.	ベルザツァール王の饗宴たけなわ

Die Knechte saßen in schimmernden Reih'n, Und leerten die Becher mit funkelnem Wein.	きらぼしのごとく家臣がならび 輝く酒杯を次々に飲み干す
Es klirrten die Becher, es jauchzten die Knecht'; So klang es dem störrigen Könige recht.	ひびく酒杯、沸き立つ歓声 このざわめきは不遜な王には心地よい
Des Königs Wangen leuchten Glut; Im Wein erwuchs ihm kecker Mut.	王の頬は赤くなり ワインのせいでますます不敵になる
Und blindlings reißt der Mut ihn fort; Und er lästert die Gottheit mit sündigem Wort.	無分別な気分に駆られ 神をあなどる言葉を吐いた
Und er brüstet sich frech, und lästert wild; Die Knechtenschar ihm Beifall brüllt.	奢りきわまり、悪口雑言で冒瀆し 家臣どもはやんやの喝采でおだてる
Der König rief mit stolzem Blick; Der Diener eilt und kehrt zurück.	王が誇らしげな目つきで命ずれば 近侍は慌てて行来する
Er trug viel gülden Gerät auf dem Haupt; Das war aus dem Tempel Jehovas geraubt.	頭上にかかげる黄金の器は エホバの宮から掠めた品々
Und der König ergriff mit frevler Hand Einen heiligen Becher, gefüllt bis am Rand'.	王は不遜な手で聖杯をつかみとり 溢れんばかりに満々とつがせた
Und er leert ihn hastig bis auf den Grund, Und rufet laut mit schäumendem Mund:	彼はいっきに杯を飲み干し 泡を飛ばして大声で叫んだ
Jehova! dir künd' ich auf ewig Hohn, — Ich bin der König von Babylon!	エホバよ！お前は末代までの笑いもの 吾こそがバビロンの王なり！
Doch kaum das grause Wort verklang, Dem König ward's heimlich im Busen bang.	しかしこの恐るべき言葉が消えぬうち 王の胸にはひそかに不吉な思いがよぎった
Das gellende Lachen verstummte zumal; Es wurde leichenstill im Saal.	どよめく笑いはびたりとやみ 広間はたちまち静まりかえった
Und sieh! und sieh! an weißer Wand Da kam's hervor wie Menschenhand;	見よ！見よ！あの白い壁に 人の手があらわれた
Und schrieb, und schrieb an weißer Wand Buchstaben von Feuer, und schrieb und schwand.	炎の文字を一つ一つ白い壁に 書きしるし、手は消え去った
Der König stieren Blicks da saß, Mit schlotternden Knien und totenblaß.	王は目をすえたままに座り込み 膝はふるえ、真っ青だ

Die Knechtenschar saß kalt durchgraut,
Und saß gar still, gab keinen Laut.

家臣たちは皆縮み上がり
身動きできず、声も出さず

Die Magier kamen, doch keiner verstand
Zu deuten die Flammenschrift an der Wand.

占い師たちが来たが、壁の炎の文字の
意味は誰も読めなかった

Belsazar ward aber in selbiger Nacht
Von seinen Knechten umgebracht.

ベルザツァールはその夜のうちに
家臣らの手で殺された

ここまで自筆楽譜と初版などを比較して歌いましたが、違いを感じていただけましたでしょうか？
勿論のことシューマンが初版を印刷する段階で直したことです。印刷ミス、校正の見落とし以外
は印刷された初版に従うべきですが、自筆楽譜で作曲家が意図したものを基本に据えて演奏する
ことが大切だと思います。

シューベルトやブラームス、ヴォルフなどと比較してシューマンは自筆楽譜と初版間の違いが多い
感じがします。理由については何とも言えませんが、勝手な憶測をするならば、彼の周りに素晴らしい
歌手がいなかったのかなーと想像します。

シューベルトにはミヒャエル・フォーグルというオペラ歌手（テノール）が彼の歌曲を演奏し広め
ましたし、ブラームスにはユーリウス・シュトックハウゼンという当時最高のバリトン歌手がいまし
ました。ヴォルフが書き込みをした初版楽譜を見ると、おそらくヴォルフ自身が演奏者からヒントを得て
書き込みをしたと思われる変更をしています。

Dichterliebe Op. 48 前回この歌曲集について話したときには、ローベルトがクララに渡した
スケッチのコピーが見つからなくて、相違について話しが出来ませんでした。やっと見つけ出したの
で少し触れてみます。

第1曲の歌いだしはスケッチ（参考資料 17 僕の手書きの写し）と自筆楽譜（参考資料 18）、印刷
楽譜（参考資料 19）では少しずつ違いがあります。

aus „Lyrisches Intermezzo”

『叙情的間奏曲』より

Dichterliebe

詩人の恋

Im wunderschönen Monat Mai,
Als alle Knospen sprangen,
Da ist in meinem Herzen
Die Liebe aufgegangen.

こよなく美しい五月に
蕾がすべて開くとき
僕の心のなかにも
恋が芽生えた

Im wunderschönen Monat Mai,
Als alle Vögel sangen,
Da hab ich ihr gestanden
Mein Sehnen und Verlangen.

こよなく美しい五月に
鳥たちがみな歌うとき
僕はこの燃ゆる想いと憧れを
あのひとに打ち明けた

時間の関係で細部にわたっては今回出来ませんので、皆さんが興味をもたれるようでしたら、また

日を改めて機会を持ちたいと思います。